

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401182		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	ハートの家八番館		
所在地	札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	令和6年11月6日	評価結果市町村受理日	令和7年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190401182-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員も入居者様も本当に元気でいつも笑いや話し声歌声が響いています。植物の好きな方は窓辺のお花が咲くととてもうれしそうな顔をします。体操の時には大きな声で「イエーイ」と聞こえます。お食事の時にはワイワイとお話が止みません。そんな環境にいる職員は幸せだといつも感じますこれからも絵がをの絶えない明るくケアが行き届いたグループホームでありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅からバスで十分の住宅地にある2ユニットのグループホームである。バス停が徒歩1～2分と近く、近所には複数のコンビニエンスストア、保育所、幼稚園などがある。もともと2階建ての1ユニットのみであったが、2年ほど前に平屋建てのユニットを増設し、2ユニットとなっている。共用空間は窓が多く明るい。室内に手作りの装飾を飾り、親しみやすい雰囲気となっている。法人が複数のグループホームを運営しており、マニュアルや各種書式、研修体制などが整っている。利用者は普段から居間に集まってクイズやゲームなどの楽しみごとに参加し、明るく賑やかに過ごしている。また、職員同士のコミュニケーションも良好で、意見を言いやすい関係をつくり、長く安定して勤める職員が多い。家族との関係では、得られた意見を共有してサービスの改善につなげている。また、定期的なホーム便りや個人ごとのお便りにより情報を適切に提供している。ケアマネジメントの面では、3か月ごとの介護計画見直し時のモニタリング表、検討会議録が分かりやすく整備されている。また、日々の記録である「総合記録シート」は、計画目標を意識して作成されている。排泄や入浴の支援の面では、利用者の状態に沿った排泄支援と希望に沿った入浴支援を行っている。家庭的な環境ときめ細かな支援のもと、安心して楽しく生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「よい人間関係なくしては、良いケアは出来ない。」をモットーに、良いケアができるように、大変な時には大変と言える。チームを作っている。	法人共通の理念である「良い人間関係なくして良いケアはできない」を掲示し共有している。理念に地域との関係の意味も含めている。理念とは別に、地域との関わりを示す3項目の運営方針を定めているが、運営方針の共有は行っていない。	運営方針に地域との関わりの方が示されているので、運営方針の定期的な確認と共有を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域と繋がれるようにしている。	町内会に加入し、利用者が回覧板を届けたり、散歩の際に挨拶するなどの交流がある。一方、感染症の流行以降、地域行事への参加やボランティアの受け入れなどは行えていない。	感染症の収束状況を見ながら、地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、近隣の福祉施設や子供たちとの交流などが実現できるよう、取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会ではご家族様や地域の方も交え施設内の報告、また、ミーティング時に行っている職員勉強会の内容を伝えるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。ホームの取り組み、ご家族様からのご意見を頂き、サービス向上に活かしている。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、複数の家族が参加している。防災や救急救命、事業継続計画などをテーマに話し合っている。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課事業指導係と事故報告をするなど、連携を図るようにしている。	運営推進会議で地域包括支援センターから情報提供を受けている。市役所や区役所には主にメールで報告や相談を行っている。管理者が市の主催する集団指導に出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内において、身体拘束委員会を3か月に1回行ない、勉強会を年に2回行ない、理解を深めています。	身体拘束を行っておらず、身体拘束に関する3か月ごとの委員会と、年2回の勉強会を行っている。委員会や勉強会で禁止の対象となる具体的な行為を確認している。片方のユニットの玄関は日中施錠せず自由に出入りできる。利用者の外出意向があれば付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内において、高齢者虐待防止委員会を 3か月に1回行ない、勉強会を年に2回行ない、理解を深めています。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、日常生活自立支援制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、疑問なことはないか確認をおこない、理解、納得を図った上で契約の締結をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にてご家族様に意見や要望をお聞きし、出された希望や意見を運営に反映させるようにしている。	利用者や家族の意見を「入居者様ノート」「ご家族からの連絡ノート」に記載し共有している。ホーム便りを2か月ごと、写真を載せた個人ごとのお便りを毎月作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて職員の意見や提案を聞き施設内が良くなるように反映させている。	月1回ミーティングを行い、活発に意見交換している。管理者と職員は年2回以上の個人面談を行っている。職員は、お便りの作成、理美容の管理、備品管理などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の評価制度を活用し、職員の頑張りを評価し、課題に対して取り組める体制を作っている。また、職員の思いを聴けるように取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内において新人職員や、中間管理職、また、テーマを決め、リモート等で研修を行っている。その他、職員一人ひとり、課題を決め取り組める体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホームの管理者同士では空室状況などの情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と個別に面会し身体や心身の状態をお聞きしました、生活される面での不安なこと「こうしてほしい」という事などもお聞きし安心して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时に施設の案内、説明(入居費用等)を詳しく行うとともに施設に入居される不安を取り除くように職員や入居されている方にも紹介させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活はどのようなであったか良くお話を伺ったうえで入居者様に必要とされる支援を提案し提供するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内でご本人様のペースで生活できるよう、また他入居者様とも円滑に生活できるよう職員も一緒に交流しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事などの報告を月に一度個人個人ハート便をお送りし日々の入居者様の生活をお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話をお聞きしたりして楽しかった事やご家族様との生活されてきた事などをお聞きし思い出を忘れないようにしています。	2～3名の利用者に知人や親戚の来訪がある。知人から年賀状が来た際は、返事の作成を職員が支援している。近くのコンビニエンスストアにコーヒーを買いに行ったり、家族と一緒に墓参りに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士お話しされたり一緒にお手伝いをされたりし、職員も間に入り見守りしたり一緒に作業を行っています。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退去後もいつでも連絡してくださいとお伝えし安心して頂けるように対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様との会話、関わりなどから感じ取れる希望、意向には耳を傾けるよう努力しています。	8割ほどの方は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情などから把握している。生活歴や趣味・嗜好を記したアセスメントシートを作成し、一部のシートは定期的に追記、更新を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から以前はどのような生活をされていたのかを聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何が出来るのか、やりたいのか、リラックスできるのか、心身の様子を見て今現在の状況を確認しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度のモニタリングで各自意見を募り入居者様の介護計画の作成に繋げています。	介護計画を3か月ごとに更新している。見直しの際はモニタリング表をもとに会議で意見交換を行い、次の計画を作成している。日々の記録である「総合記録シート」に計画目標の番号を記載しながら、目標を意識した記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはできるだけ5w1Hを意識し誰が見てもわかりやすく共有できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも柔軟な対応が出来るよう職員間で話し合いニーズに対しなるべく沿うように努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二か月に一回の地域の方を交えての会議を行いこれからの生活が安全に送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月に二回それ以外にも気になる体調の変化に応じ受診も行っている。	協力医療機関(内科)による月2回の往診を全利用者が受けている。内科以外の通院は事業所で送迎している。受診内容を個人ごとに「往診通院報告書」に記載し共有している。	

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員それぞれが気づいた事看護師さんに相談したい事など伝達メモに記入し入居者様が適切な状態に慣れるよう指示、支援をいただき対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院などになった場合は入居者様の近況を適切に伝え(ご家族、病院)一日でも早く退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態が重度化や終末期を察した時は早い段階でご家族様に連絡し状況を共有しながら職員、ご家族様と連携を取り組む体制である。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」を説明して同意書に署名捺印を受けている。事業所として可能な範囲の看取りを行う方針としており、看取りを行う際はあらかじめ勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにおいてAEDの使い方の勉強会を行い職員が常にわかるよう要所要所にプリント(対策方法)等を貼っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制、マニュアルを整備し緊急時に備えている。定期的に訓練を行っている。	年2回、夜間想定避難訓練を行い防災会社による指導を受けている。地域の方の訓練への参加は得られていない。管理者指導による救急救命訓練を行っている。地震等火災以外の対応について定期的に確認する予定としている。	訓練に地域の方の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの今までの人生や人格を尊重した言葉かけや対応をしている。	名前を「さん」付けで呼びかけ、利用者への声かけや対応は研修で振り返りを行い丁寧に接している。個人情報などは適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が何をどうしたいのかを日常の会話で引き出すようにしそれに沿っていけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気持ちや思いを傾聴し出来る限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身が期待服を選んでもらったり鏡に向かってブラッシングをしたりいつもと違う服を身に着けた時はとても良いという声掛けをしている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時々配膳や食器拭きなど皆さんその日の調子に合わせて出来る事を出来る範囲でお手伝いして下さっている。	委託業者より届く調理済みの料理を温め、職員も同じもの摂っている。献立に季節行事食やパン、麺類なども含まれている。誕生日にはケーキでお祝いし、職員手作りのお菓子を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎回チェックしている。お茶が進まない場合には違う飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行っている。入居者さんに合わせて介助や見守りを行う。訪問歯科の診療も定期的に受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録から導き出し定時のお声掛けや誘導によりトイレでの排泄を促している。	個人記録の欄にある排泄記録にそって、ほぼ全員がトイレで排泄を行い、半分程は自力で出来ている。リハビリパンツから徐々に布に切り替えるなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行いー3日目になると便秘薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてほしい方やバランスよく個人の希望もお聞きしながら週二回の入浴をされています。歌を歌いながら入ったり、登別の温泉を思い出されたりする入居者様もいらっしゃいます。	利用者の意向で曜日を決定しているユニットもあり、入浴は午前中を基本にしている。身体的に難しい場合はシャワー浴を行うこともある。ほぼ全員が浴槽に浸かり、入浴剤などの会話を楽しみながらゆったり入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が弱っている入居者様や調子が悪い入居者様は午前午後ベッドで休んでいる。午後からお昼寝をされる方も多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれが飲まれている内服薬の効果を理解し体調をよく観察し不調があった際には主治医に確認の連絡を入れ連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、レク、行事などを行っている。もっと増やせたら良い。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能になりご家族様の協力のもと自宅に帰られたり少しずつ希望に沿った支援が出来るようになってきています。	天候をみて車いすを利用する方も一緒に事業所前を散歩している。個別支援で近くのコンビニエンスストアやメガネ店で買い物をしたり、家族と外出する利用者もいる。年間の外出行事は計画しているが感染症の影響もあり実現には至っていない。	感染症収束の状況を見ながら周囲の公園なども活用して花見や紅葉見物など、季節に触れて楽しめるような外出行事に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での現金管理が出来ない方が多く、職員で管理をしており必要なものを買う時にはご家族様に報告をし支出用途かんりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から連絡がしたいと報告された場合は電話番号を確認し連絡しています。手紙は書ける方がいないため行っていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある空間づくりに努め壁には季節がわかる作り物を飾っています。	別建物のユニットとは居間のドアから行き来できる造りになっている。共用空間は空調整備で温度や湿度が適切に管理されて過ごしやすい空間になっている。壁にはクリスマスの装飾や利用者も参加した折り紙作品が飾られている。ゆったりとしたソファに座り家庭的で温かな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自座るソファがありゆっくりとテレビを観たりお茶を飲まれたりコミュニケーションが取れる空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室になるように使い慣れた家具を持ち込んで良い空間づくりにご家族様協力のもと行っています。	居室には広いクローゼットの備えがあり、室内が整頓されている。家具、小物類、仏壇が持ち込まれている。写真や家族の写真を飾り、壁に掲げている職員手作りの誕生お祝いメッセージに温かい普段の関わりが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場合でも段差のない廊下やトイレまでの距離がわかる張り紙でくふうしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401182		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	ハートの家八番館		
所在地	札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	令和6年11月6日	評価結果市町村受理日	令和7年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190401182-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年11月1日に新しいユニットが開設し2年が経過しました。開設当初からご入居されているご入居者様が8名、現在も生活をされています。職員は、開設当初からいる職員、また、新たに入職された職員も加え、ご入居者様のケアに奮闘しています。周辺症状が強いご入居者様や関りが難しいご入居様について、「本人を知る」ところに振り返り、ケアの方法や統一性を図ることで、ご入居者様の変化を実感することができました。今後も、「本人を知る」ところからはじめ、ケアの方向性や目標を検討しケアのやりがいを実感し、次のケアに繋げて行きたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「よい人間関係なくしては、良いケアは出来ない。」をモットーに、良いケアができるように、大変な時には大変と言える。チームを作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域と繋がれるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会ではご家族様や地域の方も交え施設内の報告、また、ミーティング時に行っている職員勉強会の内容を伝えるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。ホームの取り組み、ご家族様からのご意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課事業指導係と事故報告をするなど、連携を図るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内において、身体拘束委員会を3か月に1回行ない、勉強会を年に2回行ない、理解を深めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内において、高齢者虐待防止委員会を 3か月に1回行ない、勉強会を年に2回行い、理解を深めています。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、日常生活自立支援制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、疑問なことはないか確認をおこない、理解、納得を図った上で契約の締結をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にてご家族様に意見や要望をお聞きし、出された希望や意見を運営に反映させるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて職員の意見や提案を聞き施設内が良くなるように反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の評価制度を活用し、職員の頑張りを評価し、課題に対して取り組める体制を作っている。また、職員の思いを聴けるように取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内において新人職員や、中間管理職、また、テーマを決め、リモート等で研修を行っている。その他、職員一人ひとり、課題を決め取り組める体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホームの管理者同士では空室状況などの情報を共有している。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人とお会いして、現在の身体面や心身の状況、不安に感じていることや要望などをお伺いし、不安を軽減できるようにしている。また、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、グループホームの概要や料金を説明している。また、入居時にご用意して頂く物をお伝えし、初めて家族をグループホームへ入居させることの戸惑いを軽減した上で、不安なことや要望をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活環境、ご本人の意向、ご家族の要望などご本人に見合ったサービスの提供を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた出来る事、やってみたいことなどを把握し他者との交流を図れるような場を提供できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を解除し、いつでも面会ができるようになっていく。また、月1回、本人の生活風景や近況報告のためにも、個別でハート便を作成してご家族様に郵送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中や写真で思い出話を聞いたりご家族にお願いし馴染みのある家具などを持ってきてもらい以前の家を忘れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に自立し他者との関係が良い状態に職員も間に入り取り持つような支援に努めている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居、退去をされた後も、ご様子を伺うために、電話等で心配ごと等の相談を受けるように支援を努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話を大切にし、希望や意向に沿って支援を行っている。困難な場合は、今までの生活などから何が必要なのかを考え支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話しやご家族からお伺いし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をしっかりと、職員で共有することで入居者様の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度の個々のモニタリングを職員全員で実施し、入居者様に沿った適切な介護が出来るように話し合い、ご家族様にも報告し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の変化等を細かく記録するように努め、適切なケアがされているか職員間の情報の共有、連携を大切にし、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者様の記録や行動、支援に対し職員全体で話し合いその方に必要なサービスの提要に柔軟な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできていますが、活用には至っていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療には気になる体調の変化などを報告している。また、必要に応じ、ご家族様の意向に合わせ、かかりつけ医に報告し、外来受診に繋げている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、病院受診が必要な時など、職員間で情報をまとめ週1回の医療連携に看護師への相談、かかりつけ医への報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院、ご家族との連絡、職員間での共有をし、スムーズな対応を行えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様への状況を説明を行い、チームで決めた方針で介護を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時にAED、心臓マッサージ等、緊急時の対応を勉強しています。毎月行なうことで忘れることなく急変時対応は行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練は月2回、実施している。BCPの勉強会を開催し、避難できる方法を身につけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーは守られている。個々、話す内容に合わせた言葉かけや表情、雰囲気には十分気をつけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を心掛け、利用者様が「この人なら聞いてくれる、対応してくれる」と思って頂けていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜、起きていたい方には特にお声かけはせず、自室やリビングで過ごして頂いています。(テレビを観たり、おしゃべりしたり)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が着たい服を選び、着ています。選ぶことが困難な方には職員が季節、ご本人に合った物を選んで着て頂いています。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米が進まない方には梅干しやお伴になる物を用意している。また、隣りに座りお声かけしながら召し上がって頂いている。毎食後、食器拭きをして下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	エンシュアを提供したり、水分補給量が少ない方には、好みの飲み物を提供し、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を外さず、歯みがきをしている方には外してもらっている。また、介助が必要な方には、職員がブラッシングを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにお声かけし、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人に説明し、残しがちな水分を飲んで頂くようにお声かけ、医師と相談し、下剤を服薬されています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分がのらずに拒否をされている方は、順番を変えたり、ぼかぼかしている浴室内を見て頂き、入浴のお誘いをしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった時間以外でも休みたいと要望があった場合には休んで頂いています。夜間、眠れない方には足浴し安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利尿剤が追加された方には、尿の回数や足の浮腫みの軽減など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干して頂いたり、たたんで頂いたり、新聞たたみをして下さっています。また、午前と夕方にも体操をしている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人に確認し、近所へ散歩に出かけています。夏場は、熱中症の危険があり、なかなか出かけられる日がありませんでした。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に関しては、管理が困難なご入居者様が多いため、ホームで管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様、皆さん、字を書くことができるので、季節の行事(七夕など)で書いた頂いたものをホームに飾り、ご家族が面会時に見られています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、1日2回(午前と午後)の消毒、季節に応じた空調管理にて、居心地よく過ごして頂くようにしています。また、季節ごとのホーム内の装飾も月ごとに工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置しており、ご入居者様、ご自身の席を把握されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはご入居者様がご自宅より持って来られた馴染みの物や家具が置かれ、写真を飾り、居心地よく過ごせる空間となるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室の表示は手作りで温もりのあるもので表示し、場所が理解できるよう工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームハートの家八番館

作成日：令和 6年 12月 20日

市町村受理日：令和 7年 1月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	地域密着型サービスの運営方針の共有ができていない。	職員間での理念の共有ができるようにする。	職員が目につきやすいように事務所に張り出す。また、ミーティングにおいても共有するようにする。	3か月
2	2	地域との関わりが少ない。	地域行事の参加や、施設の向かいにある障害者施設との繋がりを作っていくようにする。	感染対策を検討し、地域行事に参加できるようにする。	6か月
3	35	年に2回の避難訓練には、消防設備の担当の方に参加してもらい、指導を受けているが、地域の方と参加と見守りができる体制になっていない。	避難訓練に地域の方が参加してもらえる体制を整える。	避難訓練に、施設の向かいにある障害者施設や民生委員に協力の依頼をする。	6か月
4	49	外出の支援が少ない。	花見や紅葉など、外出の機会を企画する。	日常での散歩の他に花見、紅葉の外出の機会をつくる。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。